

児童の自己有用感が高まる学級活動

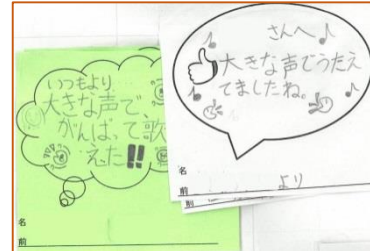
—互いの学級への貢献を称賛し合う「いいねカード」の活用を通して—

特別研修員 生徒指導・教育相談 村田壮教（小学校教諭）

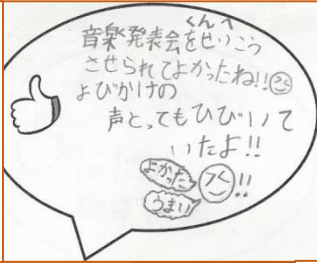
「いいねカード」の活用による認め合い

- 普段の学級活動における認め合い
- 学校行事に向けてのめあての設定の場面や振り返りの場面などで、認め合いを繰り返す⇒認め合った「いいねカード」を「いいコレ」にまとめる
- 次の行事でも同様に認め合いを行う

音楽発表会で貢献できたので、次の行事もがんばるぞ



音楽発表会の成功に貢献した友達への「いいねカード」



「いいねカード」を活用した認め合い



自己有用感

【いいコレ】
音楽発表会を成功させよう
緑〓個人めあて・振り返り
白〓友達へのいいねカード



手立て1 『いいねカード』 <いいねカードを活用した認め合い>

- 友達の貢献や、それを認める言葉を「いいねカード」に記入する。
- 「いいねカード」を交換し、称賛し合うことで、児童が自分も役に立つ存在であるということを自覚できるようにする。

手立て2 『いいコレ』 <いいねコレクション>

- 学級全員の「いいねカード」等を行事毎に1枚の模造紙にまとめる。
- 完成した「いいコレ」を振り返ることで、児童は行事が成功したという達成感を味わい、次の活動への意欲を高めていく。

教師の願い

- 友達と仲良く生活してほしい
- 学級に対して貢献できるようになってほしい

児童の実態

- 自己有用感に差がある
自分は役に立っていない・認められていないと感じている児童が存在する

生徒指導リーフ9

- 「自己有用感」を児童生徒全員が感じとれる“絆づくり”を進めることができれば、いじめには向かわない

成果

- 年度当初の質問紙調査で、自己有用感の数値が最も低かった児童の数値が大きく上昇するなど、学級平均値が高まった。認め合いを中心とした活動を繰り返してきたことによって、児童の自己有用感が高まったものと考えられる。
- 児童からは、「人の役に立っていることが分かった」「自分が貢献できたことがよく分かる」などの感想が授業後のアンケートに多く見られた。

課題

- 友達の様子に目を向けることが少ない児童はカードの記入が難しい。活動場面の写真や映像を提示するなどの工夫が必要である。
- 児童のさらなる成長のため、1年間を見通し、計画的、継続的な取組を続けていくことが今後必要である。